

H25 全国大会参加報告

平成 25 年 8 月 13 日
総務WG 平野

第 37 回日本建築士事務所協会連合会全国大会 大阪府建築士事務所協会第 6 支部参加報告

- 1 大会テーマ 建築の原点（文化・魂と技の継承）
- 2 日時 平成 25 年 8 月 9 日（金）13：00～19：40
13：00～14：15 パネルディスカッション
14：30～14：45 歓迎アトラクション（木造り）
14：45～16：00 記念講演（建築の原点・祈りと歎び 栗生 明）
16：25～17：55 大会式典
- 3 会場 三重県営サンアリーナ（伊勢市朝熊町鴨谷 4383-4）
- 4 参加者 田島康成 本間敏司 岡本伸司 平野公章 宇治孝一（全体の参加者約 1500 名）
- 5 スケジュール
8/9（金） 近鉄難波発 9：30 宇治山田着 11：16 宇治山田で昼食後シャトルバスで会場へ
大会終了後 4 支部のマイクロバスに便乗し宿泊先へ移動
宿泊先 錦海楼（鳥羽市鳥羽 1 丁目 13-1）夕食 大阪屋鳥羽店（4,7 支部と合同）
8/10（土） 田島康成、本間敏司は御白石持行事に参加（ホテル 6：15 発）
岡本伸司、平野公章、宇治孝一は朝食後、研修見学会（建築の原点を訪ねて）
（伊勢神宮、遷宮館、おはらい町、おかげ横丁）
帰り 田島、本間は御白石持行事解散後、伊勢市駅より近鉄特急で帰阪
岡本、平野、宇治は研修見学会後、宇治山田駅より近鉄特急で帰阪
- 6 参加費用 交通費 往復 6,060 円/人 宿泊費（夕食・朝食含） 16,280 円/人 計 22,340 円/人
合計 22,340 円×5 人+現地交通費・入館料など 6,290 円=117,990 円（支部予算 150,000 円）



会場到着（40℃ スーツの人もありますーすごい）



歓迎アトラクション（木造りー全員で掛声の練習しました）

- 7 大会の感想
- ・今年一番の暑さに見舞われ、年配の多い参加者には厳しい、大会だったのではないのでしょうか。
 - ・パネルディスカッションでは伊勢神宮の歴史や沢山のお祭りごと、おはらい町や周辺のまちの誕生の紹介や、現在のまちづくりの説明を、興味深く拝聴しました。
 - ・来賓の挨拶で、地元三重県の鈴木知事や鈴木伊勢市長のスピーチは若さあふれ、まちづくりを核にした観光都市（県）を造ろうとする心意気を感じました。
 - ・せんぐう館の設計をされた栗生明氏の記念講演「建築の原点・祈りと歎び」では建築の三大要素（強・用・美）の美は本当は歎びではないか、造る者、使う者、みんなが歎びを感じる建物が大切。伊勢神宮は自然（神）と人間のコミュニケーション（自然に対する祈り、自然と一緒に在ることの歎び）を過去・現在・未来とつなぐ究極のサステイナブル・デザイン [伊勢神宮=建築の原点] ではという難しい講演でしたが、日本人として現代社会の中で忘れかけていたなにか感じたのは、私だけでしょうか。
 - ・現在 20 年に一度の式年遷宮の行事中です。一度「建築の原点」を訪ねてみてはどうでしょうか。

全国大会 6支部研修報告 No1

建築士事務所協会三重全国大会見学・研修会報告 NO1

- ・開催日時: 平成25年8月10日(土)9時～11時30分
- ・見学場所: 伊勢市外宮『せんぐう館』
- ・設計者: (株)栗生総合計画事務所 施工者: (株)大成建設
- ・参加者: 平野、岡本、宇治3名: せんぐう館見学
※ 田島、本間2名: 御白石持行事参加



【報告】『せんぐう館』見学

・三重全国大会出席翌日午前中、全国大会にて、『建築の原点・祈りと歓び』記念講演をされました。栗生 明氏の2012年設計、式年遷宮記念『せんぐう館』を見学しました。

・伊勢神宮式年遷宮は20年毎に営まれ、本年が62回目に当たります。毎回、外宮及び内宮に現在ある、2箇所の社殿を、各社殿の横に確保される敷地 (6,807㎡)に、8年の歳月をかけ、全く同じ社殿を寸分違わず建て替え、ご神体をお写しします。第1回から数える1200年の歳月が流れています。

・戦前までは、式年遷宮に係る費用は、国が一切を負担・・・、戦後は国から分離され、全国の商工会議所を通じて、集められた浄財(今回費用は520億円)を持って賄われているそうです。

・社殿は日本最古の建築様式神明造り、材料は総ヒノキ(素木)であり。使用されるヒノキの原木は、外宮、内宮各々一萬本が必要となり、中でも棟持柱12本は、樹齢200年の原木が必要とされています。原木調達を含めると200年のがらに亘って造営される正に日本建築の原点がここにあると実感しました。

・『せんぐう館』は、伊勢神宮に於ける遷宮の意味や役割を一般の人々によりよく理解してもらう為の資料館として建設されました。日本建築の原点が非常に解りやすく展示され、中でも本物と同じ材料、同じ宮大工さんが作った、原寸スケール社殿は圧巻です！

☆本物は20年に一度しか、まじかに見られません・・・・・・

・今回『せんぐう館』を見学させて頂き、日本建築の原点に触れ、又面々と続く歴史を支える、人々の努力の軌跡に触れ、感謝と共に、『建築がもたらす歓びの設計』を考える良き機会になりました。
注: 今回のせんぐう館の見学の際は、館内撮影は禁止されておりますので、せんぐう館のHPより参考資料として転載させて頂いております。



6支部研修報告 No2(おはらい町・おかげ横丁)

三重全国大会見学・研修会報告 NO2

- ・開催日時 : 平成25年8月10日(土)12時~3時30分
- ・見学場所 : 伊勢市内宮『おかげ横町』
- ・参加者 : 平野、岡本、宇治3名:せんぐう館見学
※ 田島、本間2名:御白石持行事参加



【報告】『おかげ横町』見学 設計施工:清水建設、竹中工務店

- ・三重全国大会出席翌日午前に引き続き、午後4名で、前日全国大会にて、パネルディスカッションテーマ『建築文化の継承とまちづくり』の現場、伊勢市内宮『おかげ横町』を見学しました。

・当日は62回伊勢神宮式年遷宮行事が開催されており。大変な賑わいで、又熱中症と戦いの中の見学会になりました。

・『おかげ横町』は前回の式年遷宮(平成5年)に合わせて、今から20年にオープンされました。オープン前は、伊勢神宮の参客200万~400万の内、門前町『おはらい町』を訪れる観光客は、20万人程度迄、落ち込み低迷していたそうです。

・当時赤福社長であった濱田益嗣の指揮の下、当時の赤福の年商に匹敵する約140億円(私財)をかけて1993年(平成5年)に完成した「小さな町」である。伊勢特有の町並みである、『妻入の建物』や、伊勢河崎の『蔵』、桑名の『洋館』などを忠実に再現、あるいは移築した28の建造物群が並ぶ、江戸から明治期の日本の街並みをイメージし完成に至っている。

・お蔭参りで賑わった頃の町並みという統一したテーマの元で造られているが、おはらい町との間に門などの仕切りはなく、入場料を徴収しないため、テーマパークではない。伊勢志摩の特産物や土産を扱う物販店を中心に45店が営業しています。

・開業から10年で借金の返済が完了し、平成14年には入場者数が年間300万人を突破し、現在に至っている。

- ・次の20年後を目指し、外宮の参道の街並み再生事業が、スタートしていると伺いました。
- ・最後に今回、20年サイクルで官民一体にて、再生と保存⇒成長に挑戦する町、伊勢市を見学し、



三重全国大会・特別行事「伊勢神宮 お白石持行事」報告書

開催日時：平成25年8月10日(土)6時～11時30分
開催場所：おはらい町～宇治橋～正宮(内宮)～おもてなし広場(解散)
参加者(六支部)：本間、田島
全国大会参加1500名のうち600名の参加

【お白石持行事とは】

お白石持行事とは、20年に一度の伊勢神宮の社殿などを造り替える式年遷宮において、新しい社殿の周りに石を敷き詰める行事で、奉納団ら一般の人が近くまで立ち入ることのできる唯一の機会である。三重県会のはからいで600名の事務所協会会員が参加した。奉納団は、市内の宮川から集められた白い石を樽に入れて川ぞりに乗せ、順番に五十鈴川に沿ったおはらい町を宇治橋たもとまで2本のロープを引いた。

宇治橋を渡り、手を清めた後お白石を受け取り正宮内に参り、順番に新しい社殿のまわりにお白石を並べていく。この行事は、10月に執り行われる「大神嘗祭」「遷御の儀」でクライマックスをむかえるまで延べ23万人が奉仕することになる。全国大会をきっかけとして20年に一度の奉獻に参加し、あらためて建築技術伝承の大切さを実感することが出来た。



正宮まわりにお白石を奉獻する



握り拳大のお白石



お白石を樽に詰めて曳き車に乗せる



宇治橋手前で曳き車からお白石をおろす



おはらい町を進行する



正宮参拝階段下にて待機